

九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 肉類、脂肪酸摂取とアレルギー性鼻結膜炎有症率との関連

背景：食事による脂肪は炎症や免疫の経路に様々な影響を及ぼします。脂肪酸や脂肪を多く含む食品摂取とアレルギー性鼻炎との関連に関する疫学研究はいくつか報告されていますが結果は一致していません。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査に参加した 1745 名の妊婦さんを対象としました。International Study of Asthma and Allergies in Childhood に基づき、過去 1 年のアレルギー性鼻結膜炎を定義しました。年齢、妊娠週、居住地域、年上兄弟数、子数、喫煙、受動喫煙、アレルギー性疾患の家族歴、家計の年収、教育歴、BMI を交絡因子として補正しました。

結果：過去 1 年アレルギー性鼻結膜炎の有症率は 25.9% でした。肉類の摂取が多いほど、アレルギー性鼻結膜炎有症率の高まりと有意な関連を認めました。魚介類摂取とアレルギー性鼻結膜炎とは関連がありませんでした。総脂肪、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、n-3 系不飽和脂肪酸、 α リノレン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸、n-6 系不飽和脂肪酸、リノール酸、コレステロール摂取及び n-3/n-6 比はいずれもアレルギー性鼻結膜炎と有意な関連を認めませんでした。

結論：日本人若年成人女性において、肉類摂取がアレルギー性鼻結膜炎有症率上昇と関連があるのかもしれませんが。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S,

Arakawa M. Dietary meat and fat intake and prevalence of rhinoconjunctivitis in pregnant Japanese women: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. *Nutr J.* 2012; 11: 19.

